

第1回 TAITO フューチャースクール検討委員会

開催日	令和6年5月27日(月)16:00~17:39
場所	台東区役所 6階 教育委員会室
出席委員	高橋委員、垣野委員、坂田委員、平柳委員、田中委員、渡邊委員、前田委員、山田委員、森田委員、川田委員、宮脇委員、増嶋委員
欠席委員	なし
配布資料	① 「TAITO フューチャースクール」検討委員会設置要綱、委員名簿 ② TAITO フューチャースクール ロードマップ ③ 第1回TAITO フューチャースクール検討委員会 説明資料 ④ 中央教育審議会「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)」 【総論解説】 ⑤ 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」 最終報告 【概要】 ⑥ 創造的な学習空間の創出に関する調査研究 報告書概要 ⑦ 「東京都学校教育情報化推進計画」説明資料 ⑧ (上野小学校提出資料)本物志向・未来志向の学校づくり

■議事概要

1. 開会

2. 委員長・副委員長選出

出席委員の中から高橋委員を委員長に選出。また、委員長より垣野委員を副委員長に指名。

3. 議事

(1) 検討委員会の目的・スケジュール等について

資料①から⑦について、増嶋委員より説明。

- ・ 以下4点について、区として取り組むべき方向性と考え方を策定したい
 - 教員の資質能力の向上に向けた方策
 - 業務のデジタル化及び教育データの利活用の推進
 - タブレット端末やクラウド環境、多様なアプリなどのICT環境の整備
 - 校舎や教室配置、机、椅子などの学校施設の整備

【垣野副委員長】

- ・ 学年間の学習の位置付けについて、視点がばらけている。
- ・ 特に低学年から始まり高学年への進行で、学習環境の形状変化は大きな変化を遂げるが、その部分が略されている。

【田中委員】

- ・ 学校では、旧態依然の教育スタイルが続いており、ICT活用も表面的である。
- ・ 保護者からの意見を受け入れつつ、子供が自立し、彼らがよりよい未来を作ることができ

るようにするための教育改革が必要である。

- ・ 学校施設の大規模改修と教育内容の両方の変革により、より良い教育を提供したい。

【渡邊委員】

- ・ 保護者は、子供が自主的に学習することを望んでいるが、ICT活用の指導力のばらつきや生活指導上の問題で、統一的な授業が難しい。
- ・ 手狭な教室を改修し、大きな教室やオープンスペースが開かれれば多くの可能性が広がる。
- ・ この改革が進むと、不登校傾向の子供も授業に参加し、自己肯定感を得られ、さらに出席日数も増やせると期待している。

【坂田委員】

- ・ 中学受験対策で塾に通う児童にとって、学校の授業が復習で終わるケースがあり、一斉講義の形式では子供は聞かない可能性がある。
- ・ ICTの活用は、子供の考える力を育てる方向へ寄与するとともに、学校に来られない子供のための有効な手段である。
- ・ 働き方改革による成果は、より子供との関わりを豊かにするものであってほしいし、地域との繋がりもまた、以前と変わらず重要である。

【平柳委員】

- ・ タブレット端末は家庭でも使用できるが、教育コンテンツが不足している。
- ・ 先生たちは自主的に教材を作り出しているが、その量から負担が伺える。
- ・ ICTを用いて、一斉授業ではなく双方向の授業を目指していけると良い。

(2) 上野小学校の学校創り

資料⑧について、田中委員より説明。

- ・ 学校で教えられた知識をこつこつ勉強し、それを正しく再生できれば大学に入学でき、会社に入って生きていけた時代は過去のものである。
- ・ コロナ禍において明らかになったが、多くの子供が自主的に学習を進めることができる力を身に付けていないことが問題である。
- ・ 本物志向とは、チャレンジ魂を刺激し、自分事として自律的・自治的に取り組むことができる子供を育てることであり、そういう子供を小学校で育てて中学校に送り出している。
- ・ 未来志向というのは、学校は未来を生きる子供を育てる場であるので、そうありたいということである。デジタルの活用のみならず、問題発見や、創造的な問題解決が大切であることを子供に伝えている。
- ・ 子供が問題を発見し解決する力、自主的にデジタルツールを使う力が必要で、デジタルツールは、子供や教師の能力を増幅するものである。

(3) 先進校の紹介

先進校の動画を見ながら、高橋委員長より説明

- ・ この学校では、主体的な学習が推奨され、子供はタブレット端末を活用して学習している。

- ・ 小学校の事例では、子供が自分で検索したり考えたりしてそれでも分からなかったら、同じことを調べている人や他の人に聞いたり、他者のレポート等を随時参照し何を調べているか確認したりする。
- ・ 中学校の事例では、子供は内容を把握して自分で学習計画を立て、授業が始まったら先生の話を知りたい子供だけ前に聞きにくる。他は自分のペースで勉強する。
- ・ この教育方法は、初めは困難が伴ったが、年数をかけて改善され、現在では学力も向上している。東京では、既存の厳格なルールや規定により難しいが、ルールを変えていけばよい。

【垣野副委員長】

- ・ 海外では、学年が上がるごとに自分で選択できる機会を増やしていくとか、どんどん自習できる子供に育てていくことがよくやられている。日本でも、できる兆しが出てきているので、それに合わせて空間をセットで変えていく。

(4) 今後の委員会の開催について

【増嶋委員】

- ・ 第2回では、先進地区などの事例やモデル校の取組の進捗状況について報告する。
- ・ 今年は、2年目及び3年目に向けた基盤作りを重視したい。

4. 閉会